

WASEDA MECHANICAL ENGINEERING

第48号

APR. 2018

Newsletter

2018年(平成30年)4月1日発行

【学生部会】 学生から 早稲田機械系学科を盛り上げよう！

総合機械工学専攻 滝沢研究室 D2・学生理事 金井太郎



第46号の梅津光生教授・副会長の「新たなイノベーションを実施しよう」、第47号の石太郎理事の「機友会の新たなイノベーションを目指して」に続き、今号では“学生の視点”から、機友会、そして発足から約1年が経つ機友会学生部会について紹介する。

1. 学生部会の発足

～野球大会からの発展～

一昨秋に浅川基男会長から理事会において具体的な新施策の実施が呼びかけられた。その一環として、学生からの声を取り入れようと2017年4月に学生部会が発足した。私は、3年前に「総合機械研究室対抗野球大会(第44号, p.13)」(写真)を開催したことをきっかけに梅津副会長にお声がけいただき、学生部会の発足に携わるようになった。

当時の野球大会の開催目的の一つに“横のつながり”がある。早稲田の機械系学科は、機械科学・航空学科と総合機械工学科に分かれ、そのいずれも学部3年進級時に研究室配属(ゼミ配

属)となる⁽¹⁾。学部1、2年時は学年全体で講義を受けることが多く、互いに切磋琢磨して勉学に励む。名前順でのグループワークが中心となるため、名字の近い“戦友”が増える。しかし、研究室配属後は研究室によって講義やゼミが異なるため、同じキャンパスにしながら当時の友人とはなんとなく疎遠になってしまう。このような状況に私は、せっかく築き上げた人的ネットワークの維持と活性化をなんとかしてできないか、と以前より考えていた。指導教員である滝沢研二准教授と話しているうちに野球大会のヒントを得て、開催することになった。さらに機友会から学生部会発足の話が上がり、機友会がハブとなってこの問題を解決できるかもしれないと思い、引き受けた。

2. 学生部会の立ち上げ

～博士後期課程の仲間と共に～

機友会学生部会の活動はまず仲間探しから始まった。当時は博士後期課程1年であったため多くの同級生は就職

していたが、リーディング大学院・実体情報学博士プログラム⁽²⁾に所属して

CONTENTS

【学生部会】学生から早稲田機械系学科を盛り上げよう！	1～2
機友会通信 「大隈重信—民意と統治の相克—」	3
卒業60年目の同期会	3～4
活躍している学生紹介 充実した“研究室活動” ドイツでの海外研修を終えて イギリスでの研究留学を終えて	4～5
機友会支援サークル紹介	6～7
「第三回機械航空・総合機械研究室対抗野球大会」開催報告	8
第3回早稲田大学 航空宇宙シンポジウム報告	8～9
パネルディスカッション参加報告	9
第37回早大 モビリティシンポジウム報告	10
次世代自動車機構・理工総研(第3種)・機友会 共催「圧縮機・タービンの性能と内部流れ」講座を受講して	10～11
機友会 「GKN イブニングサロン報告」	11～12
機友会ゴルフコンペ開催報告 2017年 秋大会	12
オリブ・佐々木洋子奨学金からのお知らせ オリブ・佐々木洋子奨学金への思い	13
名簿改訂作業についての経過報告 および「名簿掲載広告募集！」	14
サポート費 会員訃報	15
大田英輔名誉教授のご逝去を悼んで	15
事務局からのお知らせ 編集後記	16



第一回総合機械研究室対抗野球大会にて

いたこともあり、賛同を得てリーダーシップのある仲間が見つかった。また、以前浅川研究室に所属していた権藤詩織さん（当時、博士後期課程1年）をご紹介いただき、博士後期課程の学生が中心となってスタートした。

まず手始めに、学生部会発足の前月に「学生から見た機友会のイメージ調査」を周辺の学生で行った（回答数80名。うち総機：44名、機航：36名）。機友会に対してどのようなイメージを持っているか、また何を期待しているか、などの現状の把握を目的とした。回答の多数には以下のようなものがある：

- Q. 機友会とは何をする団体か？
 A. OB会・同窓会（学生が入っていない！）
 Q. 機友会と自分の関係は？
 A. 会費を払っているだけ
 Q. 機友会への期待・改善点は？
 A. 何をしたいか知りたい、会費に応じたリターンがほしい

というように、本来は機友会の学生会員であるにもかかわらず、帰属意識が低く、主体性のない結果となった。中には「機友会はゴルフ大会を開催する団体」と回答した学生もいた。私自身も学生部会を立ち上げ、理事会の諸先輩方とお話をするまではご多分に漏れず同様のイメージを持っていた。しかし、実際は機友会後援のイベントは数多くあり、工場見学、航空・宇宙シンポジウム、モビリティシンポジウム、パネルディスカッション、イブニングサロン、サークル活動支援などがそうである。このイメージ調査の結果は、単純に周知ができていない、もしくは学生に寄り添った内容ではないということであろう。

調査結果を通して、当初の学生の“横のつながり”という目的から、機友会と学生を繋げる役割、次第にもっと広く学生の役に立つ組織にして行きたいと思うようになった。

3. 学生部会の活動 ～学科の枠を超えて～

学生部会の活動は2ヶ月に1度の定例会が基軸となって行われる。これまでに5回開催され、定例会の間ではア

イデアを持ち寄って議論、また活動報告を行う。学生部会で議論されたアイデアは、リーダーや担当者が機友会の理事会で提案する。理事会の承認を経て、晴れて企画を実行に移すことができる。学生だけでなく、知識・経験豊富な理事の方々の意見が入ることで、より有意義なものへとブラッシュアップしている。このプロセスは、この1年で徐々に形成されたものである。計画を実行に移すまでのフレームワークがあることで、学生の新しいアイデアを形にし易くなった。

このプロセスの元、昨年4月に発足して以来、約1年間で行った活動は以下の通りである⁽³⁾。

- a) レポート用紙の割引販売（5月）
- b) 博士学生によるパネルディスカッション（5月）
- c) 機友会ニュースレター（10月）
- d) 機航・総機研究室対抗野球大会（10月）
- e) 機航&総機女子交流会（11月）
- f) 若手OB・OGによるキャリアトーク（11月）

図のように、機友会を通じて、大学や企業、卒業生の方々との繋がりを持つてようになったことは、学生にとって非常に価値があり、今後の多様な展開の可能性を感じている。

これらの活動は、1つの企画を実行するまでに数ヶ月かかるが、表に示す学生が研究活動の合間を縫って、企画・運営を行っている。

人数もまだまだ少なく、1人あたりの負担が大きいのが現状である。学年を問わず、早稲田を盛り上げたいという学生は是非、授業や研究に支障のない範囲で学生部会の活動に参加して欲しいと願う。実際に時間をかけることが難しい場合は、意見やアイデアを提供してくれるだけでも有り難い。

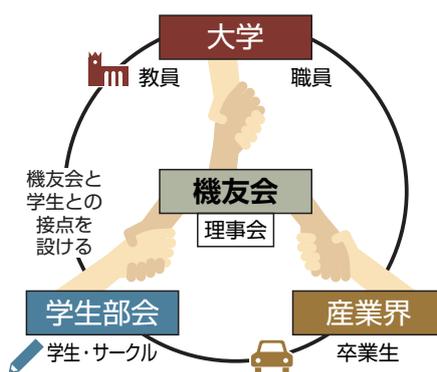
い範囲で学生部会の活動に参加して欲しいと願う。実際に時間をかけることが難しい場合は、意見やアイデアを提供してくれるだけでも有り難い。

4. 今後の活動 ～日本、そして世界へ～

これまで、学生同士や機友会-学生間、OB・OG-学生間の繋がり構築を目的に活動してきた。しかし、あくまで学生の本分は、勉強・研究である。これまで、先輩方に「学生時代は何を頑張れば良いですか？」という単純な質問を投げかけてきた。サークルやボランティアなど様々な活動がある中で、「勉強」と即答される諸先輩方が多いことがとても印象的だった。学生時代の勉強・研究はその知識だけでなく、学ぶプロセスを身につけることで将来違う分野の仕事に携わることになったとしても活かされるという。

今後は学生部会の活動として研究活動促進に重きを置き、日本にとどまらず世界において早稲田機械系学科のプレゼンスが高まるような制度、仕掛け作りを行っていききたい。そのためには、学生自らが意見を出し、主体性を持って取り組むことが大事だと感じている。浅川会長、梅津副会長、濱島理事をはじめとする機友会理事会の方々は常に学生のことを一番に考えてくださっている。この場を借りて御礼を申し上げたい。学生部会だけでなく、OB・OG、大学の教員・職員の方々を含め“早稲田機械ファミリー”で早稲田機械系学科を盛り上げていききたい。

機友会をハブとした連携体制



役割	名前	研究室	学年
全体リーダー	金井 太郎	滝沢研	D2
機航リーダー	権藤 詩織	鈴木研	D2
総機リーダー	加藤 陽	菅野研	D2
機航サブリーダー	古志 知也	岩瀬研	D2
総機サブリーダー	岡村 尚美	菅野研	D2
メンバー	佐々木 崇史	滝沢研	D2
	津村 遼介	岩田研	D2
	藤井 祥万	中垣研	D1
	船橋 賢	菅野研	D1
	仁内 智志	岩田研	M2
	堀江 直之	中垣研	M1
	楠田 義徳	鈴木研	M1
	杉田 愛	大谷研	M1
	折笠 勇	鈴木研	B4
	岸本 侑樹	鈴木研	B4
	廣田 恭平	滝沢研	B4
	矢野 夏洋	滝沢研	B4
アドバイザー	梅津光生教授・副会長	-	-
	濱島 幸生理事	-	-

(2018年1月現在)

(1) 2018年度より機械科学・航空学科は学部4年配属に変更、総合機械は現状通り3年から配属。
 (2) 本学にある文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」の一つ。専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラム。
 (3) 詳細は、第47号の「機友会の新たなイノベーションを目指して」を参照。

最近「大隈重信—民意と統治の相克—」（真辺将之（まなべまさゆき）著、中央公論社発行（中公新書）、2017年2月10日発行、495ページ）を読み、大隈重信の足跡について、今の時代にも通じる感動を受けましたので紹介します。著者の真辺将之氏は、早稲田大学文学学術院教授で、大隈重信資料の編集にも係っておられます。具体的な資料をもとに丁寧に大隈重信の生きざまを浮かびあがらせています。早稲田大学創設者としての大隈重信の人間像と日本国家に果たした役割について、政治論、国際文化論、国民の教育の重要性、人生訓等多様な視点から記述されています。約500ページにもおよぶ大作ですが大変読みやすく一気呵成に読んでしまいました。

内容は、『近代西洋との遭遇、近代国家日本の設計、「立憲の政は政党の政なり」、斬新主義路線のゆくえ、理念と権力のはざまで、政党指導の混迷、日本の世界的使命、世界大戦の風雲のなかで、国民による政治と世界平和を求めて』の9章から構成されています。帯文に「不撓不屈の国民的政治家」と紹介しており、大隈重信の人間性を適切に言い現わしています。日本の政党政治の歴史における大隈重信の考え方、歴史の中で果たした実績、早

稲田大学創設の背景や経過、なぜ二度も内閣総理大臣をやることになったのか等について、人間大隈重信の魅力が生き生きと書かれており、我々が見習うべき多くのことが示唆されています。大隈重信は大変勉強家で、勉強により培われる人間形成を重視しており早稲田大学創設の精神にも通じます。勉強こそが人格形成に重要で、国にとっても必要なことという精神が根底に流れています。国民が賢くならなくては日本はよくなるという信念から、国民の教育活動を積極的に行ってきました。大隈重信は、日本は教育が中央集権的かつ西洋の受け売りで独自の発想を生み出すに至っていないと主張しています。大隈重信は国際派でもあり「東西文明の調和」を常に基本としておりました。これらのことは今の時代にも十分通じる精神で、今こそ我々は将来に向かって大隈重信の精神を学び努力しなくてはなりません。

大隈重信は、自分の書籍等活字物が少ないと思っていました。しかし大隈公は、「開国50周年史」を編集し自らも執筆するなど多くの活字を残しています。また欧米をはじめとする世界各地を学びながら、それを融合・総合化することで、日本の学術・思想を発展すると主張し東西文明論の研究、時

事問題研究会を行い活字にしました。多くの出版物を出し国民が勉強し賢くなり日本の将来に貢献することに情熱を傾けました。常に国民の目線で物事を捉えており人間的人情もあります。大隈重信の葬儀が「国民葬」として挙行されたことがそれを象徴しております。因みに葬儀の時の交通整理等は詰襟制服の早稲田大学の学生が担当したそうです。

このように日本の将来を見据えて、東西文明を学び融合させ自分の思想形成することの重要性、そのためには国民一人一人が勉強し賢くなることが重要であること主張しています。この本は、現代の日本社会に欠けているものを気付かせてくれる魅力があり、早稲田関係者のみならず国民として必読の本だと思います。



卒業60年目の同期会

二理 昭和32年卒 増田愷昭

平成29年10月17日は機械科卒業60年目の記念すべき同期会でした。

世話役の大石忠則前機友会副会長、会計の石浜純君を初めとして、17名の級友が西早稲田キャンパス55号館1階の竹内記念ラウンジに集まりました。

昭和32年1957年の春、一理116名二理85名の卒業生が希望に燃えて早稲田の門を出て社会に向かい、戦後の高度成長期を担い、無我夢中で仕事に

励んだ年月でした。昭和56年25年目のホームカミングデーの帰りに、蕎麦屋金城庵の2階に皆が集まって、機友会元副会長石岡貞雄君と他数名の級友の発案で一理二理が合同で同期会を立ち上げることとし、年々同期会を開催しておりましたが、2006年平成18年10月22日に卒業50年目のホームカミングデーを恩師齋藤孟先生、田島清瀬先生、林郁彦先生の3名・級友61名

とリーガロイヤルホテルに於いて盛大に祝いました。これを一つの大きな区切りとし、以後は流石に恩師の高齢化で先生を同期会にお呼びする事は控える事としました。其の後変遷を経て現在は毎年4月と10月に32年に因んで、第3週の火曜日開催と決め、場所は竹内ラウンジとして、安い会費で大石君、石浜君の御手配と学食のお世話に為って楽しく続いて居ります。途中何



度か同期会解散終了の話もありましたが、止めずに同期会がこの様に続いて居る事は、先ず世話役の方々がまめにお世話下さる、元気で熱心な方々がいる、竹内ラウンジという誠に有難い定着場所が有ることだからでしょう。

機械科の卒業生として歴史を振り返ると1908年(明治41年)に私立大学として最も早く理工科の機械科として設置され、以後理工学部となり、戦後新制大学となり我々昭和32年組の卒業の後、2007年(平成19年)に基

幹、創造、先進の3理工学部とし、機械科もそれぞれの学部名称を変えて分離新設されました。

大きな機械科という名称が無くなったのは少し淋しい気持ちもありますが、新しい学部で若い諸君がより進んだ学問を学んで早稲田の名前をより一層輝かせて欲しいと願うものです。

同期の皆さんも静かな人生晩年を過ごす年と為りましたが、とてもそうとは見えない元気印の諸兄が今日は集まってエネルギーに溢れる早稲田の機械科の未来を見据えた話も出て来ました。次の10年はたまた100年後の早稲田の機械科はどのような未来像になるのか、期待に溢れて見守っている同期会級友でした。以上

活躍している学生紹介

充実した“研究室活動”

機械科学専攻 武藤研究室 修士1年 土屋翼

今回は普段行っている制御工学に関する研究活動についてではなく、広い意味での“研究室活動”について、我々武藤研究室での話をさせていただきます。

武藤研究室では、1年間の中でお花見やゼミ合宿、スポーツ大会への参加などさまざまな課外活動に精力的に取り組んでいます。昨年6月に機械科学専攻の研究室有志で行われたスポーツ大会では、研究室全体で何度も練習をして、見事優勝することができました。また9月に総合機械工学科と合同で行われた機械科野球大会は全12チーム、約140名が参加し大変な盛り上がり



バッターボックスに立つ筆者

見せましたが、その中でも武藤研究室は多くの強豪を差し置いて優勝することができました。野球経験者が他チームより少ない中でこの結果は、ひとえに研究室の結束、チーム力によるものであると私は考えています。

このチーム力は研究活動はもちろんのこと、上述したような課外活動を行う中で培われたものです。今回の野球大会に向けても、修士2年の先輩方の主導のもと研究室全体で複数回練習する時間を取り、チームの士気を高めていました。

私個人の話をしただけですと、先日の野球大会では数少ない野球経験者として期待されていましたが、序盤はなかなか結果を残すことができませんでした。しかし、決勝戦でサヨナラ打を打つことができ、試合後に胴上げまでもらいました(笑)。このことか



野球大会で優勝した時のチームの集合写真

らも研究室内の仲の良さが伺えると思います。また、この結果も決して私一人の力とは思っておらず、強豪の相手チームから全員でチャンスを作ることができた研究室の結束によるものだと考えています。

来年からは私が修士2年として後輩達をまとめる立場になります。今年の先輩方の意思を受け継ぎ、課外活動も全力で取り組み、研究室生活、ひいては最後の学生生活を公私ともに充実したものにできるよう、日々精進していきたいと思っています。

ドイツでの海外研修を終えて

総合機械工学専攻 草鹿研究室 修士1年 畑 裕登

2017年の夏休みを利用し委託研究活動の一貫として、ドイツの自動車系企業に2か月間の海外研修に行く機会に恵まれました。現在、私はディーゼル乗用車用の排ガス浄化触媒システムについて研究しています。複雑なシステムのためシミュレーションツールの開発が重要となっており、そのツール開発の勉強とノウハウを学びに渡航しました。

私の日本での研究室生活とインターンでの生活で大きく異なる点に、働く時間が挙げられます。ドイツでは夕方以降は家族と過ごす時間を大切にするといい風習でした。私は日本では夜まで研究室で研究し、夜ご飯は友達と

食べたり飲みに行ったりすることも多いですが、ドイツでは17時以降にはほとんどの人が帰宅しています。だからといって、勤務時間が短いわけではなく、早い人だと8時前に出社しています。そして、集中力が違います。お昼を食べに外に行き、オフィスに戻ってくるとすぐに切り替えてデスクで淡々と業務をしています。当たり前のことではあるものの、集中的により短時間で効率的に仕事をこなす点では大きな違いを感じ、また、とても刺激になりました。

とある週末には、草鹿先生と福間先生が訪ねてきてくださり、研修先のメンター技術者も交え中間発表会も行いました。普段、研究活動では厳しいですが、それ以外ではとても優しくて(?!)、お勧めの観光スポットやレストランに連れて行っていただき、おいしいご飯を沢山ご馳走してもらいました。海外インターンシップを経て、異文

化に触れること以外にもコミュニケーションについても刺激を受けました。私は英語が特段得意というわけではないものの、自分の持っている語彙と文法を駆使し、訪問先のエンジニアに意思を伝えられた時の喜びは大きかったです。適切な単語、文法を使うことにとらわれ過ぎないことが大切であると感じました。

このような良い経験を生かして、今後の大学院生活をより有意義なものにしたいと思います。



福間先生との打ち合わせの様子



滞在中に観光で訪れたベルリン大聖堂

イギリスでの研究留学を終えて

よしたか
機械科学専攻 岩瀬研究室 修士2年 岩田吉丘

留学すると物事の考え方が変わるとい話をよく聞きます。確かに変わります。私はこれまでに海外旅行ですら経験がありませんでしたが、研究留学の渡航費を補助する制度があると先生に勧められ、チャンスがあるならと考えて決心しました。これまでに学士と修士課程でそれぞれ、アメリカとイギリスへ二度の研究留学をしています。留学で得られたものは、友人、語学力、経験、度胸…様々ですが、一番の変化は「考え方」です。人と話したり文化を体験したり、新しいことを経験することで変化がありました。ほんの少しだけご紹介すると、例えばオープンラボという言葉をご存知でしょうか。海外では複数の研究室で部屋を共有することがあります。イギリスでは実験やミーティングしてい

ると、隣の研究室の先生や学生が参加してきてアドバイスを頂き、さらには共同研究に発展することもありました。ご自身の部屋の隣の研究室がどのような研究をしているかご存知ですか。せっかく同じ大学・建物で研究しているのであれば、そのチャンスを活かしたいと感じました。また、日本では従来とは異なること、尖っていることが好ましくないとされる習慣があると思います。私自身、研究室や学科で感じることはありません。伝統は大切にしつつも、新しいことも積極的に取り入れる海外の習慣も興味

深いです。留学後には、海外への進学、海外企業で働くという将来の選択肢も十分考えるようになりました。機械科に所属していると、授業や研究の関係で研究留学はなかなか困難です。しかしそれでも、苦勞以上に得られる経験は豊富だと思います。学生のうちでなければなかなかチャンスはありません。



York大学の研究室メンバーとの集合写真

機友会で支援しているサークルの紹介

Waseda Formula Project

機械科学・航空学科 2年
小野寺 隼 藤井裕斗

私達 Waseda Formula Project は自動車技術会主催で行われている全日本学生フォーミュラ大会に参戦しております。この大会では学生たちが自らの手で設計・製作を行ったレーシングカーで性能・企画・コスト等多岐にわたる総合力を競う大会となっております。私達のチームでは日本大会総合優勝を最終目標に掲げ、2009年より活動を行っています。

さて、昨年9月に開催された第15回全日本学生フォーミュラ大会では、2年連続となる全種目完遂を達成し、総合24位獲得と同時に日本自動車工業会会長賞を受賞いたしました。機友会諸先輩方をはじめとする皆様からのご支援・ご声援のおかげをもちましてこのような成績を残すことができたことを、改め

てチーム一同心より感謝申し上げます。

現在チームでは、今年9月に行われる第16回大会での更なる上位進出を目指して新車両の設計・製作を行っております。完走を果たした過去2年の経験を活かしながら、車両の限界性能向上とその引き出しやすさを目標に、4月上旬の初走行を目指して活動を進めております。

昨年は2009年の設立時からチームの活動を支えてくださった山川宏教授、大聖泰弘教授のご退官と研究室閉室に伴い活動資金は大幅な減額したことに加えて、大学構内における溶接作業も禁止となり、車両製作に関して厳しい状況が続いております。その一方でスポンサー企業とのダン

パーの共同開発や、展示会で車両や部品の展示を行うなどチームの技術力も大きく向上しており、大会上位進出に向けてこれまで以上に力を入れていきたい部分が拡大しております。資金や物品・活動場所の紹介など機友会の皆様には今後ともお力添えをお願い申し上げます。

今秋に良い結果をご報告できるよう、これからもチーム一丸となって活動して参ります。



早稲田大学 ROBOSTEP

総合機械工学科 3年 高西研究室
先崎翔太郎

機友会諸先輩方におかれましては、平素より早稲田大学 ROBOSTEP の運営活動や寄付金のご協力ありがとうございます。

早稲田大学 ROBOSTEP では、今年で設立3年目を迎え、会員数はOB・OGも含めると60名近い規模となりました。1年生のときに入会した私自身も、当時からは想像もできないほどのメンバー数となり、嬉しい限りです。ここまで私たちのサークルが活動を継続することができ、共に活動する仲間を得ることができたのも、設立当初よりご支援いただいている機友会の方々をはじめとした、関係のみなさまのおかげ



2017年5月の新歓BBQの様子

です。改めて深く感謝を申し上げます。

続いては、私たちの昨年の活動についてご報告させていただきます。昨年は、関東春ロボコン、NHK学生ロボコン、F³RC (エフキューブアールシー) の3つの大会に出場いたしました。まず、関東春ロボコンでは当時2年生の2チームが出場しました。結果としては、2チームとも入賞することはできませんでしたが、新たなシステムを導入するなど、今後の成長を期待できる内容となりました。

NHK学生ロボコンでは、事前審査で全49チームの中から25チームに選ばれ、全国大会に出場しました。結果としては、惜しくも2点差で敗れてしまい予選敗退という形になりました。しかし、先輩方から引き継いだ技術をもとに、新たな技術を多く開発し実装することができ、確実にレベルが上がっていることを実感しました。

F³RC では、1年生から4チームが出場しました。人数が増えたこともあり、昨年度からは引退した



2017NHK学生ロボコンで製作した機体

当時の3年生が各班のアドバイザーとして一緒に活動しました。その結果、3位入賞とF³RC大賞を取ることができました。この大会で自信をつけて、今後の活動も頑張ってほしいと思います。

最後に、昨年の活動を通して、私たち早稲田大学 ROBOSTEP はメンバーの層も厚くなり、技術的にもレベルアップし、強いチームへとつつあることを感じました。今年も目標であるNHK学生ロボコン優勝を目指して活動していきますので、ご支援ご声援のほどよろしく願いいたします。

エコプロジェクト Takumi

機械科学・航空学科 2年
池川 迅

機友会の皆様には補助金等、大変お世話になっております。今回記事を書く機会をいただけたので近況をご報告いたします。

エコランとはホンダスーパーカブのエンジンを用いて一人乗り用の車を作り速さや耐久性などではなく、「燃費



10月の全国大会でのJAKOH



新車あかね

を競う」燃費競技です。エコランプロジェクト Takumi は、週末や夏休みを利用してエンジンとマシンの設計、製作、調整やサーキットでのテスト走行、データの採取などを行い、毎年この大会に参加しています。

エコランでは現在既にある車両JAKOHの維持及び燃費改善、新車「あかね」を製作中であります。JAKOHは昨年あまり振るわない成績であったため、プログラミング及びドッグクラッチの設置の検討による記録の更新を目標としており、あかねは全国大会で壊れてしまった回路の修繕及び歪んだエンジン部品の再制作、そして何より大会で走れることを目標に活動していく予定です。

新車制作のノウハウがあまりなく、その中で新しいものを1から作り上げるという作業はなかなか上手くはいか



全国大会集合写真

ないのですが、大学で学んだこと、調べたことを応用しながら取り組めることは楽しく、自分たちの考えていたマシンが走る手前まで行っていることは感慨深く思います。我々エコランは6、10月の大会に向け、既存車JAKOHの調整、そして新車あかねの完成に全力を挙げていきます。先輩諸氏の皆様の応援のほどよろしく願いいたします。

WASA 鳥人間プロジェクト

応用化学科 2年
重本彩香

チーム紹介

早稲田大学宇宙航空研究会 WASA は、早稲田大学と日本女子大学の公認サークルで、ロケット・鳥人間・天文・電装の4つのプロジェクトを持つ、ものづくりサークルです。今回は鳥人間プロジェクトの活動紹介を行います。

現在鳥人間プロジェクトには、航空系・機械系の学生を中心に52人が所属しております。プロジェクトメンバーは、5つのパートに分かれ、毎年夏に琵琶湖で開催される「鳥人間コンテスト」への出場・入賞を目指し、日々人力飛行機を製作しています。



2018年度の目標

2017年の鳥人間コンテストでは、チーム新記録となる707.8mという結果を残しました。2018年度では、さらに飛行距離を延ばすため、昨年のタイムトライアル仕様の機体から、距離を伸ばすディスタンス仕様に変えて設計を行いました。これにより、昨年度と比べ翼の大型化、プロペラ設計法の変更等がなされました。しかし、WASA鳥人間プロジェクトには、ディスタンス仕様の機体の製作経験がほとんどありません。そのため、毎年秋に行っていた試験飛行を行わず、各パートでの試作期間を増やし、製作法の見直しや新しいことに挑戦する時間を多く設け、作業を進めています。

また私たちは、機友会、



顧問の吉田誠先生、技術センターの職員の皆様、OB・OGの皆様のご支援を頂いて活動しています。この場を借りて、心より御礼申し上げますとともに、今後もより一層のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

プロジェクトメンバー募集!

飛行機が大好き、皆で大きな物を作りたい、空を飛ばしたい...という学生をお待ちしています。活動に興味のある方は、下記のチームアドレスにご連絡ください。

wasa.birdman@gmail.com

「第三回機械航空・総合機械研究室対抗野球大会」 開催報告

機械系研究室対抗野球大会 実行委員長
総合機械工学専攻 岩田研究室 修士2年 仁内智志



集合写真

2017年9月29日(水)に機械航空(機航)・総合機械(総機)合同の研究室対抗野球大会「機友会杯」が行われました。両学科合わせて15研究室、140人超の学生が集まりました。ここにご報告いたします。

開催経緯

機航と総機ではカリキュラムが異なり、これまで学生間の交流は殆どありませんでした。しかし両学科では専攻・研究・就活で非常に近いものがあり、学生間の交流の場を増やすことで互いに刺激し合える良い関係になれるのではと思っています。そこで今年度の野球大会では、“機航・総機両学科における交流のきっかけ”を目的として開催致しました。

大会内容

昨年までの先輩方が作り上げた運営

マニュアルを基に両学科で連携を重ね、過去最大規模の野球大会となりました。当日は機友会会長の浅川基男先生の始球式に始まり、全23試合の熱戦が繰り広げられました。優勝は機航の武藤研究室でした。

大会が終わり振り返ると、浅川先生も言われていましたが、早稲田生らしさに溢れた野球大会であったと思います。私が思う早稲田生らしさとは、学生が学びも遊びも全員で全力に楽しみにいくところだと思っています。大会では、野球に全力で白熱しながらも、女子学生や野球初心者の学生たちが楽しめるよう空気を読んだり、実行委員の私たちが楽しめるよう全学生が快く協力してくれたり(23試合全てスケジュール通りに終了しました!)と、まさに全員で全力に楽しめた野球大会

でした。そんな大会であったため、当初の目的である機航・総機の交流のきっかけとしての野球大会は、大いにその役目を果たせたと思います。今後も両学科の学生同士さらなる交流を図っていき、早稲田が誇る機械系学科を共に盛り上げていけたらと思います。

最後に

ご協賛頂きました機友会の皆様、大会実行委員の楠田君・長瀬君・渡辺君・大原君・内河君・宮田君・西条君、スムーズな大会運営に協力してくれた参加者の皆様、ここに厚く御礼を申し上げます。



試合の様子



表彰式にて

第3回早稲田大学航空宇宙シンポジウム報告

理事 昭和40年卒 (松浦研) 眞下進



開会の辞：鈴木進補教授

第3回目を迎えた早稲田大学航空宇

宙シンポジウム(以下航空宇宙シンポジウムと略す)は平成29年10月28日(土)「世界の翼を支える日本の航空機産業」と題して西早稲田キャンパス57号館202教室で開催された。この企画は早稲田機友会航空宇宙懇話会(代表基幹理工学部機械科学・航空学科 鈴木進補教授)が推進していて、主催は早稲田機友会が行い、協賛はANA

ホールディングス(株)、ナブテスコ(株)、住友精密工業(株)、(株)フジキンの4社、協力は日本航空宇宙工業会、日本航空機開発協会、三菱航空機(株)、三菱電機(株)、Airbus Japan、Boeing Japanの各社が行っている。

当日は鈴木進補代表の開会あいさつに続き「日本の航空機産業」と題して(一社)日本航空宇宙工業会技術部



熱心に聴講する参加者

部長伊藤一宏氏の基調講演があり、続いて(一財)日本航空機開発協会常務理事戸井康弘氏が「民間機国際共同開発」というテーマで講演された。引き続き協賛企業各社から「航空機装備品産業」についての講演が行われた。途中休憩をはさみ1時から5時半まで行われ、聴講者は250名(機械科学・航空学科2年生は必修)近い人数でした。

事前に機友会ホームページに掲載したことも効果があった。シンポジウムに引き続きカフェテリアで懇親会が開催されたがここにも90名近い参加者でにぎわった。シンポジウムの終了後にアンケート用紙が配布さ

れ、回収率も高く学生の評価は予想通り高いものであった。学生は特に授業では聞くことができない航空機産業の全体像や共同開発における日本の技術力の高い評価、装備品も含めた今後の発展性、また国内自動車産業と比較して10分の1の規模であることや現場で起きる種々の課題と解決に関する技術的内容の講演等貴重な内容であ

た。

今年は第4回目になるが多くの会員に聴講をお勧めしたい。

なお航空宇宙懇話会メンバーは代表の鈴木進補先生をはじめ浅川基男機友会会長、故荻須吉洋機友会理事、戸田勸機械科学・航空学科教授、山梨大学生命環境学部竹之内玲子准教授、民間航空機(株)一丸清貴専務取締役の他、町田茂氏、後藤盛雅氏、早川清隆氏、鎌田秀二氏、山内純二氏、松崎潤一氏、河野通秀氏が就任している。(順不同)



パネルディスカッション参加報告

理事 昭和42年卒(斎藤研) 石太郎

2017年度のパネルディスカッションは、平成29(2017)年12月16日(土)13.00より、早稲田大学西早稲田キャンパス63号館2階201教室にて行われた。パネルディスカッションは、総合機械工学科、機械科学・航空学科の学生を対象としており、内容は、機友会活動について、基調講演、企業就職した若手OB・OGとのパネルディスカッション、2018年度・進級進路指導ガイダンス(富岡教授、草鹿教授)から構成されている。土曜にも係らず約350名の学生が集まった。冒頭の“機友会活動について”では、梅津副会長より、機友会の役割、イノベーションについて等学生が機友会について理解が深まるようにお話をされた。基調講

演は、朝倉啓氏(株)IHI顧問・エグゼクティブ・フェロー、1980年齋藤研究室修士課程修了)が講演された。朝倉氏は、仕事では、“好奇心・こだわり・柔軟性・楽観性・リスクを取る”の5要素が重要、また個人の価値観、仕事への動機が重要で自分のキャリア形成に対して偶然を必然に変える能力、岐路に立った時に情報を集めて決断する能力が重要と強調された。

続いて企業で活躍する若手OB・OGとのパネルディスカッションが行われた。パネラーは、三島大地氏(AGC旭硝子)、林映里氏(株)IHI)、永峰圭晃氏(エアバス・ヘリコプターズ・ジャパン(株))、竹崎裕記氏(キヤノン(株))、福本敦氏(東京ガス(株))、山本姫子氏(早稲田大学機械科学専攻博士課程2年)の6名が登壇した。進行は佐藤哲也教授により行われた。それぞれの会社での業務について約5分の紹介を行い、学生とのディスカッション



熱心に聴講する学生(立見も)

が行われた。学生からは、仕事のやりがいとは何か、学生時代と就職した後のギャップは何か、技術屋としてのやりがいとは何か、企業内で女性の立場で感じることは何か、ドクターコースを志望する動機は何か等積極的に質問が出され、会場は大いに盛り上がった。17.00頃終了し懇親会に移り、さらに熱気あるやりとりが続いた。同世代の企業人OB・OGとの論議で話が盛り上がり有意義な時間であった。このパネルディスカッションは、機友会の年間計画に含まれる後援活動であり今後も支援して行く。



パネラーの企業若手OB・OG・博士課程代表

第37回早大モビリティシンポジウム報告

理事 昭和42年卒(斎藤研) 石太郎

第37回早大モビリティシンポジウムは、2017年11月25日(土) 10:00~17:30 早稲田大学西早稲田キャンパス57号館2階202教室にて開催された。当日は快晴に恵まれ、土曜日ではあったが午前の部より大勢参加され、ピーク時には300名を超える聴衆となった。

内容は、7講演、2特別講演、研究報告。司会：福間隆雄、廣田寿男(早大)で、草鹿教授の開会の辞ではじまり、大聖泰弘名誉教授の閉会の辞で終了、17:30より懇親会が行われた。

具体的には、7講演：世界初量産可変圧縮比エンジンのVC-Tの紹介(日



熱心に聞き入る聴衆

産：木賀新一)、天然ガス自動車開発の取り組み(いすゞ：鹿内和憲)、正味熱効率55%を目指した新たなディーゼル燃焼コンセプト(新エシイー：内田 登)、乗用車用クリーンディーゼルエンジンSKYACTIV-Dの進化(マツダ：片岡一司)、大型商用車新型ディーゼルエンジンの開発(日野：神谷敏明)、LC500hにおけるマルチステージハイブリッドシステムの開発(トヨタ：大島康嗣)、運転支援と自動運転—Hondaのビジョンと取り組み—(本田技研：杉本洋一)、2特別講演：「2030年から2050年を見据えた物流と公共交通に関する展望(日野：小

川 博)」、「日産自動車のパワートレイン戦略とAICEにおける産学官連携による研究推進(日産：平井俊弘)」、研究報告：「次世代自動車研究機構・早大モビリティ研究活動(早大：草鹿仁教授、紙屋雄史教授)」であった。いずれも最先端の自動車技術や自動車関連の将来展望に関する内容で、聴衆には大変有益な情報であった。2018年には内燃機関研究室100周年を迎えることとなり、このシンポジウムの歴史の深さを感じさせた。懇親会でも熱心な交流が続き、変化する最先端の自動車技術に浸った1日となった。(文中敬称略)



開会の辞：草鹿 仁教授



閉会の辞：大聖泰弘名誉教授

次世代自動車機構・理工総研・機友会 共催 「圧縮機・タービンの性能と内部流れ」講座を受講して

理事 昭和40年卒(松浦研) 眞下進

昨年に実施された標記の講座を受講してみた感想を報告いたします。全12回の講座は3人の外部の講師が早稲田大学西早稲田キャンパスにその都度来校され午後6時から7時45分まで講義が行われた。大学側の担当は基幹理工学部機械科学・航空学科の宮川和芳教授(機友会理事)でした。小生は全部の講座を受講できなかったがその感想を報告いたします。学生の聴講者は常に60名を超えており、聴講料が無料という事もあり外部からの聴講者も熱心に聴講していた。

講師の先生方は東京大学機械工学科修士課程を修了後三菱重工業(株)高

砂研究所で圧縮機関連の研究をされ、その後明星大学で教鞭をとられた工学博士山口信行先生、九州大学大学院工学研究科機械工学専攻を修了後、三菱重工業長崎研究所で遠心圧縮機、小型ガスタービンの研究され現在三菱重工業(株)総合研究所の主席プロジェクト統括の工学博士茨木誠一先生そして早稲田大学大学院理工学研究科修士課程を修了後、(株)IHIで回転機械の設計・開発に従事、常務執行役員、取締役を経てエグゼクティブフェローであると共に(一社)ターボ機械協会会長も歴任された朝倉啓先生と3名の専門家が学生達に貴重な講義をされた。

また聴講者には学生だけでなく自動車メーカーでエンジンシステムの開発を担当されている技術者なども多数来られていた。テレビ会議システムを用いて遠隔地(サテライト)にも広範囲に講義が配信され、質問も外部からも送られてくるなど文字通りの双方向通信によるものだった。

講義は動画などを用いて難解な解析理論や現象を非常にわかり易く話されていたことに驚いた。なぜ流体が羽根から剥離するのか、その時の剥離の発生場所はどこが起点か、サージングの現象はどんなものか。またエンジンに使用されるターボチャージャーへの排

気ガスの流れはどのようなものか、シリンダーから排出される高温の排気ガスの脈動現象がタービンに及ぼす影響等々貴重な講演がどんどん続いた。講義終了後の質問は学生や社会人から多く出された。学生からは非常に深い理論の質問もあり講師と学生との絆のようなものを感じた。そしてこのような貴重な講義を身近に受けることができる早稲田大学の機械系の学生達の恵まれた環境をまじかに知り機友会の人間としても大きな喜びを感じた。これか

らもこのような講義が続けられることを祈る。

講座名と講師名を以下に記す。

(講師肩書略)

- 圧縮機の失速・サージ概論
10月19、26日、11月9、16、30日、12月7日 山口信行先生
- 遠心圧縮機の理論と設計
11月6日 朝倉 啓先生
- ラジアルタービンの理論と設計
11月20日 朝倉 啓先生
- ターボチャージャーの技術
11月23日 茨木誠一先生
- 低温用ターボ機械とサイクル
11月27日 朝倉 啓先生
- ターボチャージャーの設計

- 12月11日 茨木誠一先生
- ターボチャージャーの内部流れ
- 12月25日 茨木誠一先生



講演される山口先生

機友会「GKN イブニングサロン報告」 (GKN = 技術経験ネットワーク)

「製鉄工業全般について」を聞いて

理事 昭和40年卒(松浦研) 眞下進

平成28年10月20日(月)第3回機友会理事会に続きGKN イブニングサロンが開催された。今回は講師にJFE スチール東日本製鉄所で工程部計画室長の要職にある西圭一郎氏(機友会理事河合研 平成4年修了)により製鉄工業全般に関する講演が行われた。

参加者は学生30名、機友会会員31名と多くの参加者であった。今回は事前に機友会ホームページに掲載したことも効果があったようで、特に25年卒業の山田総会員は、ホームページをみて知り駆けつけられたとの事で、初めての参加。引き続き開催の懇親会には学生10名、機友会会員17名が参加した。冒頭に先の山田総会員のご挨拶と乾杯をいただき賑やかに始められた。



貴重な講演をされた西圭一郎理事(左側)へ感謝!

西氏の講演は製鉄業界の歴史的な経緯を話された後、我が国の鉄工業製品の品質の良さについて興味ある話が聞けた。かつての我が国の高度経済成長を根元から支えてきた鉄鋼業界の並々ならぬ技術革新にも触れてくれた。一方最近の造船業の国際競争力の低下は当然のこととして製鉄業界にも影響が多く及ぼしている事についてもふれたが、他方鉄道業界ではレールの寿命があることからリプレースの量がまだかなりある事や、海外での高速鉄道の発展が我が国の高品質のレール受注の機会を増やしていることにも触れた。鉄道、自動車、高層建築物、橋梁、等今もって基幹産業として発展しなければならぬ使命についても簡潔に説明され鉄の使用は未来永劫に必要とされるものであると明言された。過去には製鉄業界等(ガス業界もしかり)の大気汚染が社会から厳しく指摘された事もあったが鉄鋼業界ではいち早く製鉄用コークスの原料となる高品質の石炭の還流に伴い排

出される灼熱した石炭の消火に、冷却用の水を使わずに窒素ガスのような不活性ガスを用いて火を消す設備の導入を果たしてことも興味深い内容であった。川崎市の空気の清浄がこの技術で画期的に改善されたことは周知の事である。大気汚染に苦勞している国々への技術援助にも効果があると思えた。

西氏の講演を聞いて新しい製鉄技術の開発と実証プラントの運転を官民学が一体となってAI化を大規模に組み入れた実証プラントの必要性を感じたのは小生一人ではないと思いつつ貴重な講演に感銘を受けた次第である。

西氏の講演から外れるが機械系出身者の1次産業離れが指摘されている中で、40年後の日本は生産年齢人口が今の半分になると言われている。将来のAI化も見据えて文科省では小、中学校の教育を根本的に変えていくとしている(平成27年・中央教育審議会)。

ものづくり国家への再出発への試行を読み取れる。

JR 東日本の研究開発について

総合機械工学科 中垣研究室 4年 佐藤航平

今回のイブニングサロンではJR 東日本の三須弥生氏(機友会・理事)からJR 東日本の企業紹介、脱線事故および列車が受ける風の影響に関する研究のお話を聞くことができました。運

輸業が主要事業の約7割を占めており、利用者によって駅がどのような場所であると良いのか徹底的に追及するために地域の方の意見を積極的に取り入れる等、駅づくりのみならずまちづ

くりも行っていることが分かりました。

脱線事故の研究のお話ではどのような事故が発生し、そのような事故を二度と発生させないためにどのような研究および対処をしているのかをとて

分かりやすく教えていただきました。日比谷線脱線事故は様々理由を含む競合事故であり、運輸安全委員会が設置されるより前に発生しました。原因として低速運行であったために遠心力が弱く、摩擦等による横圧が増大し軸重アンバランスを生じてしまったことがあります。その後の研究により脱線係数が定められ低速であればあるほど係数は増加することが分かりました。また、この事故がきっかけとなり脱線検出器の研究が飛躍的に進歩し多くの事故が未然に防がれていることを実感しました。

脱線事故の原因として風による転覆があり、風速だけでなく構造物の形状や盛土高さや地表面粗度等の様々な因子が複雑に影響していることが分かり

ました。安全性を最優先に考え、最初に風規制の閾値しきいを下げることで研究をする時間を確保し、過去に考案されていた式が正しいのかどうかを定量的に判定後、新しく式を考案し、必要となるデータをとっても詳細に取得するといった手順で対策をされていました。これにより、単に閾値を下げるよりも効率よく安定輸送を実施することができると、JR東日本が乗客をとっても大切に思っていることを強く感じました。

最後に、早稲田の卒業生は、独立心が旺盛で人にむやみに頼らずに仕事で結果を出すことによって信頼を勝ち取ろうとする傾向があると教えていただきました。これらの特徴は自分にも多々当てはまるためとても興味深い話でした。今回のお話を聞いて数学や力

学等の様々な知識が複合的に研究の基礎となっていることをあらためて実感しました。学校では全ての問題に解答が用意されているが、社会に出ると答えのない課題が多いため、視野を広げることが重要であると教えていただきました。今後も研究室でしっかりと研究して課題解決の実体験を通じて、工学や数学の基礎を身につけるとともに課題解決能力を向上させていきたいと思えます。



機友会 ゴ ル フ コンペ開催報告 秋大会

2017年

第38回早稲田機友会ゴルフコンペ

第38回早稲田機友会ゴルフコンペが昨年11月9日に川崎国際生田緑地ゴルフ場で開催されました。総勢39名が参加されS32年卒の最長老からS51年卒の最年少若手(!)に加え、3名の女性ゴルファーが花を添えてくれました。因みに平均年齢、約73歳の早稲田機友会軍団のコンペとなりました。

筆者は昨年、現役を引退し平日GOLFをエンジョイできる身分となり今回が初参加となりました。まず受付では早稲田カラーのエンジキップが支給され、久々に早稲田OBを自覚し、見知らぬ大先輩の方々と共に添付の集合写真撮影から行事が始まりました。

当日は快晴でしたが初冬の寒さと風が川崎国際を更に難コース(?)にし、大たたきホールが続出しました(筆者の場合)。それでも皆さん無事に完走し、成績発表と懇親会に移行しました。

成績の結果は結局、小職が初出場、初優勝の栄誉を拝し、同時に次会幹事の大役を仰せ付かることになりました。決して自慢出来るグロススコアでは全くなかったのですが、前述の大たたきホールが全てハンデホールとなりネット65が優勝スコアです。

自分のグロススコア(未発表)と初出場優勝の負い目、次会幹事の負荷を考え複雑な心境で優勝トロフィーをい



ただきました。

懇親会の会場で改めて感じたことは出席の皆さんがほとんど筆者の大先輩の方々と、80歳になっても元気にGOLFをされているお姿を拝見し勇気付けられる一日でした。まだ若手(?)の参加者が少ないことも有り、小泉研究室やバレーボール同好会のOB会で参加者を更に募り、次回の機友会GOLFコンペを盛会にしたいと思っていますので、今後もよろしくお願いいたします。

(昭和49年卒 佐藤昭夫 記)



オリーブ・佐々木洋子奨学金からのお知らせ

元職員 佐々木洋子

第47号(2017年10月1日発行)のニュースレターでお知らせしました、ご寄付を頂いた方々のお名前を掲載したいとした件ですが、承認していただいたとしてここに掲載しました。現在、元教授2名、OB15名、4研究室、匿名1名の方々から支援をいただいています。この中には複数回に渡って頂いている方、また大変高額の方もいます。本当にありがとうございます。

オリーブ・佐々木洋子奨学金を設立してから3年が経過しました。そして、この制度もだんだん知っていただけるようになり、卒業生の皆様のご協力により、今年度から更に充実した奨学金

の支給が可能になりました。

ある卒業生の声ですが「寄付したことで後輩の役に立っていると思うと、寄付した意味がある」との声ももらえています。

また、奨学課が開催し総長も出席する「指定寄付奨学生の集い」の会が、毎年12月中旬に開催されます。この会では奨学生と寄付者との懇親会に、私自身も2度ほど出席しています。参加している方々とお話していると、いつも思うのは「早稲田大学は本当に素晴らしい大学」だと感じてますし、このオリーブ・佐々木洋子奨学金を設立できて本当に良かったと強く思いま

す。この会での楽しみは、今年はどうな学生さんが奨学生として採用されたかなと、ワクワクしながらご本人とお会いすることです。昔私が機械科連絡事務所で働いていた時とは、「世の中・人」はだいぶ変わりましたが、「機械科」という共通の話題もあり、とても楽しく話しをさせていただきました。

オリーブ・佐々木洋子奨学金をご理解いただき、ご寄付を頂いた方々を下記にご紹介します。

また、2017年12月に決まった2名の奨学生の方につきましては、ニュースレター秋号でご紹介する予定です。



寄付者	学部卒年	寄付者	学部卒年
林 郁彦	S25	栗原 慶太	H18
浅川 基男	S41	久保田 尚江	元職員
井野 博	S42	古川 光子	
近藤 英之	S42	山根研究室OB会(第一回)	
残間 淳	S43	山根研究室OB会(第二回)	
原田 芳彦	S43	山根研S50酔詠会	
久保 直基	S44	S46 卒奥村研 ゆかりの友の会	
大谷 雅美	S46	柴山研有志一同	
金尾 雄二	S46	S43 卒溶接研一同	
加藤 泰彦	S46	匿名	
片山 義雄	S46		
角尾 光信	S46		
鈴木 正剛	S46		
高久 和重	S50		
中壘 公史	S62		

2018. 2. 2 現在

オリーブ・佐々木洋子奨学金への思い

機友会会長 浅川基男

私事で恐縮ですが、私は戦争で父を亡くしました。小学校のクラスで私と同じ母子家庭が2割ほどいたことを覚えています。幸いにもこの環境から、私が早稲田大学に入学できたのは給与・貸

与の奨学金のおかげでした。また、当時は下宿代もそこそこでしたので地方から早稲田大学を目指してきた学生が5割以上を占め、独特の早稲田カラーを醸し出していました(現在は首都圏が8割に近い)、したがって、大学の学費値上げ時には学生は自らのこととの思いで後輩のために立ち上がったほどです(写真は1966年2月の新聞記事)。

現在では地方から早稲田大学に来るためには全て併せて4年間で1千万~1.5千万円必要です。地方の優秀な学生が早稲田に行きたくとも行けない事

情がここにあります。本奨学金は佐々木洋子さんの強い思いで経済的に恵まれていない機械系学生のために設立された機友会がサポートする奨学金です。現在少しずつではありますが、ファンドも積み重なりつつあります。総長室の話によりますと、継続して募金額が増えていく奨学金は珍しいとのことでした。しかし、まだまだ不十分です。海外の大学は卒業生の募金で成り立っていると言われます。募金を思い立った場合、まず本奨学金にご協力いただきたいと願っています。以上



理工キャンパス

大田英輔名誉教授のご逝去を悼んで

基幹理工学部長・研究科長 機械科学・航空学科 教授 太田 有



大田英輔先生は、昨年11月14日夕刻、入浴中に突如として鬼籍に入られました。享年78歳という若さでした。亡くなる前日も趣味の乗馬をされるなど非常にお元気で、当日、寒いからお風呂に入ると言われたのが最期とのことでした。昨年10月に愛媛県松山市で開催された日本ガスタービン学会の定期講演会ではお元気な姿を拝見し、懇親会ではご挨拶もされておられました。亡くなる1週間前に浜松市で開催された大田研のOB会にもお元気に出席されておられたとのことで、まさに突然に旅立たれた感があります。

大田英輔先生は1963年3月に第一理工学部機械工学科をご卒業の後、1965年修士課程修了、博士後期課程入学と同時に理工学部助手に嘱任され、2007年3月のご退職まで早稲田大学に奉職されました。当初は和田研に配属されて潤滑の研究を志しておられましたが、その後、田島研に移られ、高速気流の

研究に従事されました。博士論文は衝撃波の成長・減衰に関する実験並びに数値解析研究で、計算機の発達に伴う数値流体力学の黎明期に先駆的な研究成果を数多く発表されました。その後、研究範囲を流体力学全般に拡張され、調節弁のキャビテーション、流体機械の騒音低減、固気二相流の境界層、各種エンジン内非定常流れなど広い分野で研究成果を発表され、ASME Best Paper Award、日本ガスタービン学会論文賞、日本機械学会からは論文賞を3度受賞されておられます。在外研究でAachen工科大学に滞在された以降は、研究範囲をガスタービンや航空エンジンを始めとする空気機械や原動機分野にも拡張されると共に、日本ガスタービン学会会長や日本航空機エンジン協会評議員などの要職を歴任されました。当時の機械工学科で航空関連分野の研究をいち早く開始され、2007年の理工学部再編時に「機械科学・航空学科」

設立に向けて大きな原動力となりました。ご定年後も学会の講演会や国際会議、各種委員会活動などに積極的に参加されており、お目にかかる度に研究内容についてご指導を賜っておりました。愛車のMercedesで通勤され、LeicaのカメラやMontblancの万年筆、Staedtlerのペンを愛用され、愛馬の名前はSonnetと、ドイツをこよなく愛しておられた先生でした。先生とご一緒させて頂いた最後の国際会議もDüsseldorfでした。先生には35年以上の長きに亘ってご指導頂き、研究に対する姿勢や実験に対する心構え、教育や講義の方法に至るまで、現在の全てをご教示頂きました。改めて厚く御礼を申し上げると共に、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

2017年度 サポート費

2017年8月1日から2018年1月18日までの間に下記の方々から592,000円（内各サークル支援417,000円）のサポートをいただきました。厚く御礼申し上げます。今後とも皆様方の更なるご支援をお願い致します。（敬称略）

氏名	卒年
小島 國仁	昭和33年
中川 章	昭和35年
堀 信夫	昭和36年

氏名	卒年
岡部 公一	昭和41年
平松 孝道	昭和41年
川澄 俊明	昭和44年

氏名	卒年
直江 寧和	昭和46年
斎藤 正憲	昭和50年
高橋 秀知	昭和59年

氏名	卒年
岡 秀典	平成19年

各サークル支援

エコラン	
氏名	卒年
堀 信夫	昭和36年
星野 邦男	昭和38年
桑川 博親	昭和46年

ロボステップ	
氏名	卒年
堀 信夫	昭和36年
桑川 博親	昭和46年

鳥人間	
氏名	卒年
堀 信夫	昭和36年

フォーミュラ	
氏名	卒年
堀 信夫	昭和36年

※堀信夫氏（一機械、2015年10月没）御令室様よりいただきました。

会 員 訃 報

2017年9月28日以降 下記の方々の訃報の連絡がありました。

ここに、謹んでご冥福をお祈りいたします。（敬称略）

卒年	学歴	氏名	逝去年月日
昭和28年	工研機	前田 勝也	2010.10.7
昭和32年	二機械	斉藤 稔	2017.1.31
昭和33年	一機械	鎌倉 好宏	2017.9.21
昭和35年	一機械	中田 耕一	

卒年	学歴	氏名	逝去年月日
昭和36年	一機械	太田 一	2017.9.20
昭和36年	二機械	小川 慎一	2017.1.15
昭和36年	一機械	堀 信夫	2015.10.20
昭和38年	一機械	大田 英輔	2017.11.14

事務局からのお知らせ

住所・E-mail 等の変更のあった時にはご連絡ください

機友会事務局では、会員約25,000名の方々のデータを管理しておりますが、約4割の方々の情報が把握されていません。また、事務局から発送する郵便物が受取人不明のため返送されることがたいへん多くなっています。

たいへんお手数ですが、住所、勤務先、E-mail 等の変更が生じた時は事務局までメール、またはお電話で知らせくださいますようお願いいたします。

機友会ホームページをご覧ください

事務局からのお知らせとして、総会・見学会・イブニングサロン、その他催事等のご案内、また発行済のニュースレターを掲載しています。是非ご覧ください。

<http://www.kiyukai.mech.waseda.ac.jp>

第39回 機友会ゴルフ大会開催のお知らせ

日 時：2018年5月10日（木）

集合 8:00 スタート 8:30

会 場：川崎国際生田緑地ゴルフ場

費用：20,360円（プレー費16,360円 参加費4,000円）

申込先：機友会事務局

TEL/FAX：03-3205-9727

E-mail：waseda-kiyukai@ktb.biglobe.ne.jp

準会員として奥様やご家族の参加も可能です。また、正会員でも親睦会員として、競技とは関係なく体力とご相談の上マイペースでの参加も可能です。

会費納入についてのお願い

会費納入について

機友会の活動は皆様からの会費を財源に運営されています。会費納入について、是非皆様のご理解、ご協力をいただきたくよろしくお願いいたします。

会費は1年間分 3,000円 4年間分 12,000円
会費納入については郵便局または下記銀行からお振込みください。

※銀行からの場合

三菱東京UFJ銀行 新宿通支店 普通口座 No.2460079

お振込みの際は同姓同名の方がいますので卒年・氏名・フリガナを必ずご記入ください。

※郵便局からの場合（振込手数料がかかる場合があります）

ニュースレターに同封されている郵便局の振込用紙は全員の方に送付していますが、昭和34年以前卒業の方、当年度まで会費の納入の方、及び銀行口座振替の方にはサポート費と印字した振込用紙を同封しています。どうかご支援を賜りたくよろしくお願いいたします。

※当年度から会費を払う場合

今まで会費納入されていない方、過去何年か納入されていない方が遡って納入される方がありますが、会費を遡っていただく規則はありません。当年からの会費として納入をお願いいたします。

会費納入の自動引落し窓口を開設しています

会費納入に振込みの手間がかからない銀行口座自動引落しの窓口を設けています。

会費は1年間2,750円と少しだけお安くなっています。

ご利用される方は申込み用紙をお送りしますので事務局までご連絡ください。

銀行口座自動引落しは毎年4月18日（休日の場合は翌日）となります。たとえば、5月に申込みをいただいても、翌年の4月からとなります。

第38回早大モビリティシンポジウム開催

本年度も恒例の早大モビリティシンポジウムを下記のように開催します。なお、今年はモビリティ研究室は100周年を迎え記念行事も行いますので奮ってご参加ください。

記

■第38回モビリティシンポジウム

日 時：2018年11月24日（土）10:00-17:00

場 所：大隈講堂

懇親会：文学部生協レストラン

■モビリティ研究室100周年記念式典・パーティー

日 時：2018年11月25日（日）10:00-11:30

記 念 式 典：大隈講堂

パーティー：リーガロイヤルホテル（校友のみ）

詳細は研究室ホームページ <http://www.f.waseda.jp/jin.kusaka/> の「NEWS」にてお知らせしておりますのでご覧ください。ご不明な点がございましたら

mobility@rise-waseda.jp までお問い合わせください。

創造理工学部総合機械工学科 教授 草鹿 仁



編集後記

機友会ニュースレター48号をお届けします。編集のお手伝いを初めて3号目になります。まだ慣れておらず雑用程度しか手伝えないのですが、編集グループの皆様のおかげで毎回記事がすぐ集まり、手際よく出来上がってくるのは驚き以外の何物でもありません。インターネットの時代ですがこのような印刷物の媒体で情報をお届けできるのは日ごろ機友会会員の皆様からの会費のたまものです。卒業生だけでなく現在キャンパスで学んでいる学生も含めた大きな意味での受け皿（ベースキャンプ）として機友会が発展していくことを願っています。

（昭和50年卒 松島好則）

機友会事務局

開室日：月、木、金の10:00～16:00

住所 〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1
早稲田大学西早稲田キャンパス55号館2階

201号室、早稲田機友会 事務局

電話/FAX 03-3205-9727

E-mail waseda-kiyukai@ktb.biglobe.ne.jp

（事務局メンバー：井古田、大貫、神原、佐々木、松島）

WME ニュースレター 第48号

平成30年4月1日発行

発行元 早稲田機友会編集委員会

・機友会：佐々木、石、眞下、松島、神原

・学生会部：金井、藤井、折笠、岸本、矢野

印刷 神谷印刷株式会社

〒171-0033 東京都豊島区高田1-6-24